

中學
用校

習字帖

松石書

上

K220.72
29a
1

K220.72

29a

1

中學
校用

香川習字帖

緒言

- 一、從來世に行はるゝ習字科教科書は、木版彫刻の技術拙劣なるを以て、往々肉書の真意を失ひ、生徒をして筆意を了解せしむるに苦むとは、教育家諸賢の一大恨事として傳へらるゝ所なるが、今回本書の原版を造るに當りては、東都第一流の刷師に托して最も懇切に彫刻せしめ、其の印刷上の成績鮮明にして、原筆者の真意を誤らざること明確なり。
- 二、本書は、今回改正せられたる中學校教授要目に據り、各一冊を一學年の課程に充て、毎週習熟せしむべき字數は、卷を開きて左右二頁とし、隔週毎に淨書せしむる目的を以て編纂せり。
- 三、僅少の時間を以てあらゆる文字の書き方を知らしめんには、先、運筆間架結構の要訣を會得せしむるに如くものなし。

本書はこの主義に基き上中二卷にありては、大字の楷行二體點畫入法及び間架結構を知らしめ他にありては、直接に實用の資に供するを以て目的とす。

草書の用は多く日用往復の文書にあるを以て、一半は書簡用語を集め、一半は其輕妙なる運筆漢字と假字との連絡を習熟せしむる爲、數章の書牘文を掲げたり。而して各卷通じて格言短文詩歌等を挿み、一は國語漢文との連絡を保たしめむが爲、一は習字の傍讀誦の興味を成ぜしめ併せて品性涵養の一助ともなさむことを期せり。

- 一、本書編纂の趣旨叙上の如しと雖も、其教授方法の仔細に至りては、教授者各卓見の存するあり、敢て編者の贅言を要せず、唯生徒をして師翁玄妙の筆意を了解せしむるを得ば、その榮これに過ぐるものなし。

編者誌

一
二
王

人
木
禾

永水主

立六京

千中早

卒目自

刀局寅

冥戈式

風氣毛

也長民

孔玩月

用列歿

之友防

造巢糸

公只魚黑

鳥馬采受

兆率冷涼

江海忠琴

千里ハ足下
ニ始マリ高

山ハ微塵ヨ
リ起ル

額ニ痛手ハ負ハッオ
へ背ハ見セジ君ガタ

メ向フ野山ノ露ヨリ
モ命ハ輕シ名ハ重シ

少年易老學難成

一寸光陰不可輕

未覺池塘春草夢

丁廿五

階前梧葉已秋聲

丁廿六

履歷書

住所
族籍

氏名

生年月日

學業

一明治何年月日何府縣立何中學校ニ入學目下
第五學年ノ課程修業中

業務

一曾テ公私ノ業務ニ従事セシコトナシ

賞 罰

一明治何年月日何モノ廉ニ依リ何賞ヲ受ク
一曾テ罰ヲ受ケシコトナシ

右ノ通りニ候也

右

年月日

氏

名

宇宙直至

市亨夫春

雷雪衆界

故地辨仰

明野朝叔

鶯叢蕃衝

一盛
日年
難不
再重
晨來

歲及
月時
不當
待勉
人勵

校則ハ徒ニ學生ヲ束縛スルモノ
ニ非ザレバ常ニ之ヲ守リテ苟ニモ
違背セザラン事ヲ心掛クベシ規

則ヲ守ル習慣ヲ養フハ後來
世ニ立チテ業務ニ従事スルニ及
ンテ大ニ利益トナルモノナリ

缺席御届

第一學年丙組

小川 清

右ノ者病氣ニ因リ本日ヨリ三日間缺席致甚度

別紙醫師診斷書相添此段御届及ヒ候也

住所

年月日 右保證人 大山 峻

何中學校長中岡豊殿

